

いしかわ

まちづくり ^{ビュー} View

No. 59

目次

■特集 都市再生整備計画事業(寺井地区)	1
■あのまち、このまち“まちづくりめぐり”	
いしかわ広告景観賞について	4
金沢城二の丸御殿の復元整備	5
■センターだより	7

特集

都市再生整備計画事業（寺井地区）

1 はじめに

能美市寺井地区は、旧北国街道の宿場町として栄えました。旅人が行き交うことで多様な文化・価値観に触れる機会が多く、時代時代でまちの様子を変えてきました。

九谷焼産地の1つとして「ジャパネクタニ（貿易九谷）」を世界に羽ばたかせ、華やかな中心街を形成したこともありましたが、近年のモータリゼーションの発展に伴う郊外化などの社会情勢の変化により、商業機能の低下が著しく、空店舗なども目立つ状況となっていました。

また、徒歩圏内に保育園、児童館、小学校、中学校、図書館などが立地し、教育・福祉施設が比較的充実していますが、まちなかの道路は幅員狭小で十分な歩道が確保されていないなど、通学・子育て環境の安全性に問題を抱えていました。



▲ ジャパネクタニ

その派手さが外国人の好みに合い、明治初期に横浜や神戸から海外へ輸出された

2 事業概要

「地域住民の交流から育まれる寺井まちなかの活性化」を目標とし、「能美東西連絡道路」や「寺井保育園」の整備を中心としたハード施策と、住民が主体となったソフト施策を展開し、官民一体でまちなかの再生と活性化を図ってきました。

【事業期間】

平成 26 年度から令和 2 年度まで（7 年間）

【基幹事業（2,388.5 百万円）】

能美東西連絡道路整備（幅員 12.0m、延長 450m）、無電柱化整備、道路修景施設整備、市道整備（歩行空間整備・道路側溝有蓋化等）、案内サイン整備、ふれあいプラザ整備（地域交流センター）、かたかご広場再整備、イベント広場整備、ポケットパーク整備

【提案事業（713.5 百万円）】

寺井保育園整備、ふれあいプラザ整備（子育て支援センター等）、空家・空店舗活用事業、ミニ茶碗まつり開催、事業効果分析調査、地元協議会運営

整備前



整備後



▲ 能美東西連絡道路

整備前



整備後



▲ 市道整備

整備前



整備後



▲ イベント広場整備

整備後



▲ 寺井保育園整備

整備後



▲ ふれあいプラザ整備

3 事業効果

「能美東西連絡道路」整備による他地区とのアクセス強化・交流促進を図り、まちなかの空家活用件数や歩行者数、子育て環境に対する満足度などの増加を目指しました。

また、「寺井保育園」整備による当該地区の子育て環境に対する満足度を指標としています。

1. 空店舗・空家の活用件数

定義	整備前	整備後
能美市の助成制度を利用し、空店舗や空家をリノベーションして活用を図った件数	1 件 (H25)	6 件 (R3 見込値)

2. 中心商店街の自転車歩行者数

定義	整備前	整備後
寺井図書館前における平日昼間 12 時間あたりの自転車歩行者数（観測値）	200 人/12h (H25)	305 人/12h (R3)

3. 子育て環境に対する満足度

定義	整備前	整備後
市民満足度調査による寺井小学校区の「児童福祉・子育て支援の取り組み」項目に対する満足度（満足・やや満足）	57% (H25)	73% (R3 見込値)

4 まちづくり活動

寺井地区都市再生整備計画事業を契機に、寺井まちなかの活性化を図るため、平成26年2月に寺井町活性化「てらかつ」協議会が発足しました。能美東西連絡道路や寺井図書館前広場の整備では、その修景デザインを検討してもらい、魅力ある整備に活かしてきました。

約20名の地域住民が参加し、「無理をしないで、自分の好きなことを、ちょっとずつ試してみる」という活動コンセプトに基づき、「わがまちらしさ」を求めて、事業完了後も住民主体による住民のための息の長い活動を展開しています。

5 おわりに

本事業の完成に伴い、令和3年7月18日に完成式を執り行いました。事業完成後については、「てらかつ」が主体となり、この事業で整備された街並みを活かし、地域がさらに活気に溢れるものとなることを期待します。

【問合わせ先】

石川県能美市土木部まち整備課

TEL:0761-58-2251

E-mail:machiseibi@city.nomi.lg.jp



▲ ミーティングの様子



▲ わがまちを知る
「てら散歩」



▲ わがまちを知る
「まちなか写生会・作品展」



▲ わがまちを伝える
「てら散歩マップ」制作



▲ 空家を使わせてもらって楽しむ
「あかりプロジェクト」



▲ 空家を使わせてもらって楽しむ
「花と茶の宴」



▲ 九谷焼と話せる充実のまち寺井
「陶芸教室・作品展」



▲ てらかつフェスタの様子
「ミニ茶碗まつり」



▲ 整備されたイベント広場で催し
「トワイライトの集い」

いしかわ広告景観賞について

1 はじめに

屋外広告物は、景観を形成する重要な要素であり、無秩序に設置されると街の魅力を損ねてしまう一方、良質でデザイン性が高い広告物は訪れる人々にまちの表情として好印象を与えるものとなります。

石川県は、霊峰白山や加賀・能登の海岸など多彩な地形が織りなす自然景観をはじめ、優れた景観資源を有しています。こうした本県の誇る貴重な財産を守り育てながら後世に引き継いでいく必要があります。県では、良好な景観形成につながる優れた屋外広告物を表彰する「いしかわ広告景観賞」を実施しております。

2 事業概要

いしかわ広告景観賞は、本県が全国に先駆けて、都市景観等の向上と屋外広告物に対する県民の関心を高めることを目的として、昭和63年から実施し、本年度で34回を迎えました。

【第34回いしかわ広告景観賞の概要】

主催：いしかわ広告景観賞実行委員会

(石川県、金沢市、石川県屋外広告業協同組合)

審査：審査委員長 大場吉美金沢学院大学名誉教授

表彰：知事賞（公共部門、民間部門） 2点

金沢市長賞 1点

石川県屋外広告業協同組合理事長賞 1点

各後援団体賞 10点



▲ 表彰式



▲ 受賞者による作品説明（表彰式）

3 受賞作品（第34回いしかわ広告景観賞）

・石川県知事賞（公共部門）



▲ 松任総合運動公園ウォーキングコースサイン

・石川県知事賞（民間部門）



▲ 眠りにまっすぐ乙丸屋

4 おわりに

来年度も、本県のイメージアップにつながる景観の創出に寄与する優れた「屋外広告物」の応募をお待ちしております。

【問い合わせ先】

石川県土木部都市計画課

TEL: 076-225-1759

E-mail: toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

金沢城二の丸御殿の復元整備

1 はじめに

金沢市の中心部に約 25ha の広さを持つ金沢城公園には、江戸時代から残る多種多様な石垣や石川門などの重要文化財建造物、復元整備された櫓や門など江戸期の城郭の姿を感じられる施設が数多く存在します。

昨年 7 月には、城の西側の入口である鼠多門・鼠多門橋が完成し、中心市街地から尾山神社、金沢城、兼六園、本多の森公園へと繋がる藩政期からの歴史的な文化財建造物が集積する「加賀百万石回遊ルート」が新たな観光ルートとして形成され、賑わいが創出されました。

現在は、城内最大の建物であった「二の丸御殿」の復元整備の取り組みを進めています。



▲ 金沢城公園平面図

2 二の丸御殿の概要

二の丸御殿は、金沢城の中心に位置する二の丸に江戸前期に創建され、約 240 年間の長きに渡り、加賀藩の政庁や藩主の住まいとして使用された城内最大の建物です。二度の火災による焼失、再建を経て明治維新を迎えましたが、明治 14 年に旧陸軍の失火により失われました。

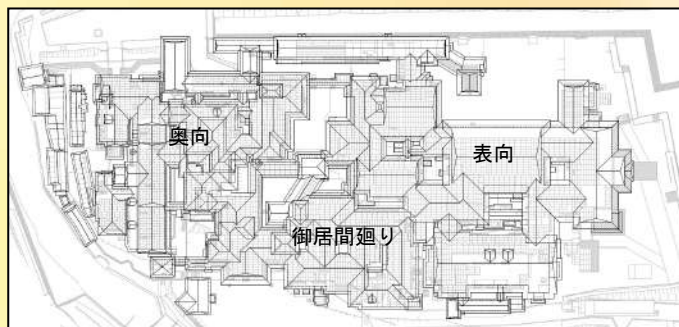
御殿はおよそ 3,200 坪の規模で 60 を超える部屋からなる巨大な建造物で、数多くの装飾品や著名な絵師による障壁画に彩られた、豪華絢爛な、まさに加賀百万石を象徴する建物であったことが、江戸後期の史料などから明らかになっています。

3 令和 2 年度までの取り組み

(1) 「金沢城二の丸御殿調査検討委員会」

石川県では、平成 30 年に城郭等の専門家からなる「金沢城二の丸御殿調査検討委員会」を設置し、既知の史料等の調査により、御殿の復元の可能性について検討を行いました。

調査の過程では、御殿の内外装の仕様を詳細に記録した史料が確認されるなど新たな知見を得ることができ、令和 2 年 2 月には委員会の検討結果として、「儀礼や政務の場であった「表向」の復元整備を進めることは可能」との報告があり、県ではこれを受けて、令和 2 年度に復元整備に向けたより具体的な調査検討を実施しました。



▲ 江戸後期の二の丸御殿全体図（絵図を参考に作成）

(2) 埋蔵文化財調査

令和 2 年度に実施した埋蔵文化財調査では、建物の礎石の基礎が連なって確認され、「表向」の位置を概ね確定することができました。



▲ 埋蔵文化財調査の状況

(3) 建築物等の調査

御殿に関連する建築物の調査では、金沢市内の神社において、御殿から移築された能舞台や書院の天井の遺構を確認することができ、書院の格天井に貼られていた金箔張りの天井画も確認できました。



▲ 建造物等調査の状況



▲ 天井画の調査・確認された天井画

(4) 復元整備の基本方針

更に、令和 2 年度には、今後の復元整備に向けた基本方針を策定し、復元整備の方針として、

- ①史実性の高い復元整備
- ②伝統工法、伝統工芸の活用
- ③御殿ならではの特徴の再現
- ④技術の研鑽、継承の場としての活用
- ⑤県民参加による復元整備

の5つを掲げています。



▲ 二の丸御殿「表向」主要部の復元イメージ

復元整備の進め方として、「表向」のうち玄関、大広間、書院など御殿の特徴となる造りや装飾などがあつた主要部を対象に、屋根の形状や建築の構造などを考慮して区分し段階的に整備を行うことや、工事中においても情報発信に努めることも方針としています。

また、御殿の復元整備を「金沢市歴史的風致維持向上計画（令和3年3月変更）」に位置づけ、地域活性化の核となる貴重な歴史的資産の保存・活用に資する整備を進めることとしています。

4 令和3年度の取り組み

今年度よりこれらの方針に沿って復元整備事業に着手し、まずは外観の立面図が存在し、御殿の正面、顔とも言える玄関や式台の周辺部分から、基本設計を進めています。

設計を進めるにあたり専門的・技術的視点から指導や助言をいただくため、「金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会」を設置し、検討を進めています。

なお、令和３年４月より、復元整備事業を推進するための専門組織として、土木部に「金沢城二の丸御殿復元整備推進室」を設置し、教育委員会、県立美術館、歴史博物館等の部局を横断する職員配置による庁内連携の体制を強化しました。

5 おわりに

二の丸御殿の復元は、金沢城の価値や魅力を格段に高め、中心市街地の魅力向上や活性化に大きく寄与するとともに、伝統的建造技術や伝統工芸技術の研鑽・継承の場としての役割も有するものであり、着実に取り組みを進めていきたいと考えています。

【問合わせ先】

石川県土木部公園緑地課

金沢城二の丸御殿復元整備推進室

TEL:076-225-1774

E-mail : e251800a@pref.ishikawa.lg.jp

センターだより

いしかわまちづくり技術センターでは、まちづくりに関する様々な活動をサポートしています。ここでは、サポート内容についてご紹介します。

まちづくりの啓発や普及をサポート

○街並み・まちづくりシンポジウム

まちづくりに関する「意識の高揚」、「普及と参画促進」、「きっかけづくり」などを目的に、最新のまちづくりに関する話題や課題等をテーマとしたシンポジウムを開催しています。

今年度は、10月2日（土）に「市制施行10周年記念まちづくりシンポジウム in 野々市」を開催しました。当日の様子は次号で詳しくご紹介します。



▲ 基調講演



▲ パネルディスカッション

○まちづくり専門家の派遣

住民団体や協議会が実施する、まちづくりに関する講習会や勉強会にまちづくりの専門家（アドバイザー）を派遣し、まちづくり活動を支援しています。当センターでは、専門家の旅費・謝金を助成しています。



▲ まちづくり専門家の派遣



住民主体のまちづくり活動をサポート

○いしかわこどもの未来創造まちづくり事業

将来の地域のリーダーとなる子どもたちと共に、行うまちづくり活動（まちづくり学習）を支援しています。今年度は、5件の活動に助成します。

○我（和）がまちづくり（いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業）

“元気な住民と元気なまち”をつくりだすためのまちづくり活動を支援しています。今年度は、4件の活動に助成します。



▲ いしかわこどもの未来創造まちづくり事業



▲ 我（和）がまちづくり（いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業）

○まちづくりリーダー研修会

活動支援を行った団体の報告会を行います。地域で頑張る皆様の生の声が聞け、他の活動から学ぶことが沢山あります。来年2月に開催する予定ですので、是非ご参加ください。



▲ 活動報告



▲ 認定証交付式・記念撮影



まちセンくん



まちづくりに関する様々な情報を発信しています。



編集後記

今回は、都市再生整備計画事業（寺井地区）について特集しました。地域の主役である住民が、“無理をしない範囲で楽しみながら”まちづくり活動に関わることで、持続可能な地域づくりを実現していますね。

当センターでは、皆さまのまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりに関する情報発信に努めています。是非、お気軽にお問い合わせください。

編集協力：石川県（都市計画課、公園緑地課）、能美市
発行：公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター
TEL：076-239-1616 FAX：076-239-1606
HP：<https://www.machisen.jp/>
発行日：令和3年9月